

6年生の足跡と伝統

＜そこにいるだけで…＞

感情をあらわにしているわけではないのに、なぜかその人からこちらに何か伝わってくる場合があります。

「ただそこにいるだけでこちらは圧倒される」

「怒っているわけではないのに緊張感が漂う」

「その人が前に出ると輝いている感じがする」

「そばにいてくれると安心する」

「一緒にいてくれるととても頼りになる」 ……………

それは先輩、お父さんやお母さん、先生、友だち、実績を残してきている強いチーム、有名な俳優や歌手…、など様々でしょう。特に何も話さなくても伝わってくるものがあるのは不思議です。その人の人柄や行動の様子などが影響しているのでしょうか。何か見えないものがこちらに伝わってくるのを感じます。

＜児童総会に見る6年生の姿 2 / 21＞

今年度は統合の年で、何をすることも初めてでした。誰も歩いていない雪の上を最初に歩く時は、自分たちが歩いたところに新しい足あとが付き、後から来る人はその足あとを目印に歩いていくものです。最初の歩き方や歩いた方向がよくなければ、その後歩く人はとても困ります。大変責任が重く緊張を伴うものだったでしょう。それが伝統となっていくわけですから。でも、だからこそやりがいもあったことと思います。そんな状況の中で、6年生は新しい児童会を運営してきました。

深々とおじぎをし、胸を張って発表している姿を見た時に、4月当初の児童会からの成長を感じました。私たちの学校生活の中には、「式」という字がつく行事がいくつかあります。「入学式」「卒業式」「始業式」「終業式」などがそうです。普段の生活の中にも「結婚式」「告別式」など、おめでたいものから悲しいものまで様々です。いずれも節目の時に行われ、静かで落ち着いた雰囲気、真剣さ、一生懸命さなどが感じられ、「おごそか」や「厳粛・げんしゆく」という言葉が用いられます。児童総会は「式」ではありませんが、まるで「式」を行っているような雰囲気がありました。当日は、立っている時の姿勢、視線、腰を下ろしている時の姿勢、話を聞く時の視線、話す時の声の出し方…、どれをとってもさすが6年生と言うべきものでした。さらに印象的だったのは、質問や意見が寄せられた時の答え方でした。

「〇〇の活動は、やらないんですか」

「△△は来年も続けてほしいです」

ある程度質問の内容は予想していたと思いますが、それでもどう答えたらいいか迷う内容のものもありました。しかし立ち往生したり、先生や友だちに相談したりするようなことはなく、

「ありがとうございます。委員会で相談して決めたいと思います」

「新しい委員会に引き継いでいきたいです」

「時間がないので、質問の答えを掲示しますので、それを見てください」



などと答えて、質問者に対応していました。6年生の存在は実に大きいものだと感じました。そこにいるだけで安心感が漂います。

<伝統の誕生>

児童会の1年を振り返ってみますと、様々なことが浮かびますね。

「さみどん」という新しいキャラクター
児童会祭りと焼き芋会のコラボレーション
中学校と一緒にあいさつ運動
各教室を回ってあいさつ
姉妹読書
ごみひろい登校
タンザニアクイズ
アルミ缶集め
おそうじ週間
体力づくりサーキット
アナウンス体験
.....

やってきたことは他にもまだまだたくさんありましたね。後期児童会長は「みんなのおかげでここまで来ることができました。伝統をどのようにつくっていくか考えた1年でした。伝統はつくれたでしょうか」とあいさつの中で言っていました。いろいろ考え、悩みながら6年生が築いてくれたものは、確実に全校の友だちに伝わりました。こうした様々な企画の中、今年オリジナルが伝統として生まれたのではないのでしょうか。

<いつも全校のみんなのことを考えて>

「笑顔いっぱい ～みんなであるこう～」というテーマからも分かるように、「笑顔」という言葉がキーワードとなり、様々なところで登場しました。ひと通り活動を終えられたのは、「笑顔」という分かりやすい言葉を用いてくれたからだと思います。1年生から6年生までみんなが理解し、意識できたからだと思います。実際に委員会活動をしている4・5・6年生だけでなく、1・2・3年生も分かりやすいように計画してくれて、常に全校のことを考えて進めてくれたからではないでしょうか。

児童総会で、会場から質問する児童の数が大変多かったのも印象的でした。それだけ関心をもって議案書をよく読んでいるのだなと思いました。三水小学校をもっともっと良くしようという気持ちが表れているひとときでした。とてもうれしいことです。

新しい役員も決まり、いよいよ5年生がリーダーシップを発揮する時が来ました。これまで6年生の活動を間近で見ていた5年生は、これからどのような児童会をつくり、リードしてくれるのかとても楽しみです。また、1年生から4年生の皆さんも、「私たちの番がきたら、〇〇をやりたい」という思いが、きっと浮かんできていることでしょう。そう考えると、この1年間の6年生の存在は、実に大きいものでした。本当にありがとうございました。

